シラバス参照

タイトル「**2021年度スポーツ科学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**スポーツ科学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	SSCS3617		
科目名	コーチング演習Ⅲ		
担当教員	本道　慎吾		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火４		
講義室	1205	単位区分	選
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門応用		
科目小分類	専門総合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード　学修のゴールを示すディプロマポリシー（ＤＰ）との関連 　DP３－G　〔状況把握力・判断力〕　自らの置かれた状況、及び自己が帰属する 集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 　DP３－H　〔論理的思考力・批判的思考力〕　理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 　DP４－F　〔探究力・課題解決力〕　問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 　DP４－I　〔理解力・分析力〕　文章表現、数値データを適切に扱いつつ、 情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 　DP５－J　〔創造的挑戦力・達成力〕　コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを 革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 ■ＣＲコード　学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 Ｇ１状況把握（４０%） Ｆ２課題解決（２０%） Ｈ１論理的思考（２０%） Ｉ１理解分析と読解（５%） Ｊ１継続的学修基盤（５%） Ｊ２創造的思考（１０%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 ３ 発展期～４ 定着期		
科目概要・キーワード	コーチング学研究法演習、コーチング演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、自分の専門種目について、競技特性に応じたコーチング理論を学び、コーチとして指導現場で活動するための応用的な考え方や、パフォーマンスを獲得するためのコーチング技術及び能力を身に付けることを具体的に実践し、活用できることを目的とします。授業形態は、実際のスポーツ指導現場から見た課題について、演習により行います。なお，授業を補完・代替するためオンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■キーワード　コーチング能力、コーチング技術、コーチング		
授業の趣旨	■副題 　多様化するコーチングの現場において、コーチングに関する実践的なメカニズムや課題解決方法について議論を通して明らかにします。 ■授業の目的 　コーチングを取り巻く環境について考察し、討論を通して実際の指導現場におけるコーチングに関する課題を発見し、その解決策を考察することを目的とします。 ■授業のポイント 　これまで関連する授業の中でコーチングに関する理論や経験知、研究方法などの知識を議論や演習を通して獲得してきました。そこで本講では自身が取り組んでいるもしくは興味のある競技スポーツや一般的なトレーニングに焦点を当て、実際の指導現場で役立つ応用的な考え方や実践方法を演習形式で学修していくことになります。そして学修した内容から自身の意見や一般的な理論、他者の見解を加えて総合的に考察することになります。		
総合到達目標	■コーチングの指導現場における活動のために、実践的に役立つ知識を理解し、その運用方法を修得する。 ・実際の指導現場における様々な問題を列挙できる。（第1回・第2回） ・コーチングに関する様々な問題についてその解決策を調べることできる。（第3回～第8回） ・解決策について具体的な手段や方法論について記述することができる。（第9回～第12回） ・課題解決のための具体的な手段や方法論について討議することができる。（第13回～第15回） ・コーチングにおける実践的な知識について状況別やカテゴリー別に類別することができる（第3回～第15回）		
成績評価方法	■レポート２回（４０%）：適応ルーブリック　H1・I1・J1・J2 （評価の観点）授業の内容を踏まえて、自身の考えを理論立てて示すことができるかどうか評価します。 （フィードバック方法）　授業時間中に解説を行います。 ■授業参加度（６０%）：適応ルーブリック　G1・F2 （評価の観点）授業内で実施する授業シート、及びリアクションシートの内容により授業内容を把握し、建設的な議論ができる		

	かどうか評価します。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。
履修条件	コーチング学研究法演習(SSCS2317)及びコーチング演習Ⅰ(SSCS2326)・コーチング演習Ⅱ（SSCS2327）を履修していることが望ましい。
履修上の注意点	
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ　ガイダンス ②授業概要　授業の進め方や評価について説明を行う。また，授業の概要やコーチング演習ⅠおよびⅡ、コーチング学研究法演習との関連性、学習方法を学ぶ（G１）。 ③予習（120分）　コーチング演習Ⅰ・Ⅱおよびコーチング学研究法演習で学習した内容の復習を行う。 ④復習（120分）　自身が最も興味のある競技スポーツの指導方法について調べておく。
2	①授業テーマ　実際の指導現場における現状について ②授業概要　競技スポーツの指導現場において、コーチングの方法論や資格について学識を高めるとともに（H1）、コーチングを取り巻く現状について討論を行い（J2）、そこから発生するであろう問題点や課題について発表する（F2）。 ③予習（120分）　コーチングを取り巻く現状について討論できるように資料を収集しておく。 ④復習（120分）　他グループの発表から「コーチングの問題点」や「コーチングの課題」を聞いて自身の意見と比較を行う。
3	①授業テーマ　課題に対する科学的知見からの解決策の模索① ②授業概要　コーチングの現場において指導者が学ぶべきスポーツ科学の学問領域について把握し（G1）、その学問領域から得られる知識が課題解決にどのように役立つのか仮説を立て（J2）、グループで議論を行う（F2・H1）。 ③予習（120分）　日本スポーツ協会の指導者養成課程について調べておく。 ④復習（120分）　議論された内容に対して、より具体的な仮説を考察する。
4	①授業テーマ　課題に対する科学的知見からの解決策の模索② ②授業概要　コーチングの現場において指導者が学ぶべき各競技特性に応じたスポーツ科学の学問領域について把握し（G1）、その学問領域から得られる知識が課題解決にどのように役立つのか仮説を立て（J2）、グループで議論を行う（F2・H1）。 ③予習（120分）　自身が取り上げる競技スポーツ指導者資格の専門カリキュラムについて調べておく。 ④復習（120分）　様々な競技スポーツの専門カリキュラムについて比較を行う。
5	①授業テーマ　課題に対する科学的知見からの解決策の模索③ ②授業概要　コーチングの現場において指導者が学ぶべきスポーツ科学の学問領域について、課題解決のための必要性を説明することができ（G1・F2）、レポートを作成することができる（H1・J2）。 ③予習（120分）　これまでの授業資料を用いてレポート作成の準備をしておく。 ④復習（120分）　指導者がスポーツ科学の学問領域を学習する手段について考察する。
6	①授業テーマ　課題に対する具体的なコーチング手段の模索① ②授業概要　指導現場において、課題解決のための具体的なコーチング手法（手段）の資料を収集する（G1・F2・I1）。 ③予習（120分）　自身が取り上げる競技スポーツを１つ挙げ、コーチング手法に関するキーワードを5つ程度準備する。 ④復習（120分）　収集した資料を整理しておく。
7	①授業テーマ　課題に対する具体的なコーチング手段の模索② ②授業概要　前回の授業で収集した資料を精査し（H1・J1）、課題解決のためにどのような役割を果たすのか分析することができる（F2）。 ③予習（120分）　収集した資料を精査できるように準備しておく。 ④復習（120分）　授業内で分析された内容を整理しておく。
8	①授業テーマ　課題に対する具体的なコーチング手段の模索③ ②授業概要　前回の授業で分析された資料について他者に説明できるようにレポートを作成できる（H1・J1）。 ③予習（120分）　これまでの授業資料を用いてレポート作成の準備をしておく。 ④復習（120分）　自身がこれまで受けてきたコーチングと比較を行う。
9	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の検討① ②授業概要　実際の指導現場を想定し（J2）、課題解決を達成するための具体的なコーチング手段について自身の経験を踏まえながら議論を行う（F2）。 ③予習（120分）　自身がこれまで受けてきたコーチングの内容を整理しておく。 ④復習（120分）　議論の内容を踏まえて、より具体的な手段について考察しておく。
10	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の検討② ②授業概要　実際の指導現場における課題を設定し、具体的な解決手段の仮説を立てる（F2・J１）。 ③予習（120分）　実際の指導現場における課題を3つほど挙げておく。 ④復習（120分）　立てられた仮説についてより詳細に検討しておく。
11	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の検討③ ②授業概要　実際の指導現場における課題を設定し、具体的な解決手段を実践する（F2・J１）。 ③予習（120分）　実践する上で留意すべき点についてまとめておく。 ④復習（120分）　実践された内容をまとめておく。
12	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の検討④ ②授業概要　実際の指導現場における課題を設定し、具体的な解決手段を実践しながら精査していく（G1・F2・J2）。 ③予習（120分）　前回の授業で実施した内容をまとめたものを読み返しておく。 ④復習（120分）　実践の中で精査された内容についてまとめておく。
13	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の報告書作成① ②授業概要　実践した内容について、具体的な手法やその妥当性、効果について指導者の視点から理論的にレポートにまとめる（F2・H1・I1）。 ③予習（120分）　これまでの授業資料を用いてレポート作成の準備をしておく。 ④復習（120分）　レポートに記載した内容を踏まえ、その改善策を検討しておく。
14	①授業テーマ　課題解決のための実践手段の報告書作成② ②授業概要　実践した内容について、具体的な手法やその妥当性、効果について指導者の視点から理論的にまとめられ

		たレポートを用いて、授業内で発表する（G1・H1・J1） ③予習（120分）　レポートを用いて発表できるように準備しておく。 ④復習（120分）　他者の発表内容を聞き、興味を持った点や関心を持った点を5つ以上挙げておく。
	15	①授業テーマ　まとめ ②授業概要　前回のレポート発表をもとにフィードバックを行う（G1）。また、この授業を通して得られた知識や経験知について振り返り、総括を行うことができる（H1・I1）。 ③予習（120分）　前回の授業で発表された内容について精査し、自身が興味関心があった発表を1つ決めておく。 ④復習（120分）　総括された内容について振り返りを行い、まとめておく。
関連科目		「コーチング演習Ⅱ　SSCS2327」（2年次後期配当）および「コーチング演習Ⅳ　SSCS3618」（3年次後期配当）は、本講と密接に関係します。
教科書		指定なし
参考書・参考ＵＲＬ		日本コーチング学会 編『コーチング学への招待』（大修館書店，2017年）
連絡先・オフィスアワー		■連絡先 開講時に告知します ■オフィスアワー 授業時に連絡します。
研究比率		

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.